

なでしこ通信
第 30 号

- ◆めざす会第 8 回講演会(案内)
「みつめよう いのち・子供・家族」
- ◆男女混合名簿を考える
- ◆連載 変貌するフェミニズム科学
(2) 男はできそこない?(下)
めざす会幹事 水上紘一

健全な男女共同参画をめざす会

平成 21 年 9 月 15 日

なでしこ通信 第 30 号

◆めざす会第 8 回講演会 「みつめよう いのち・子供・家族」

来る 11 月 23 日(勤労感謝の日)に、故遠藤周作氏夫人、遠藤順子先生をお迎えして第 8 回講演会を開催する運びになりました。先生のご著書から引用し、ご紹介をさせていただきます。

■遠藤家の子育て

わが家は、子供が生まれる前、「たとえ身体障害者の子供が生まれても必ず育て上げよう」と約束しました。この約束は、ある意味で、子供を産む母親にとって勇気を与える言葉だと思います。息子の子育てでは、昔ながらの教え「赤ん坊は肌身離さず、幼児は手を離さず、子供は目を離さず」を心がけてきました。これは私たちの世代ではいわば当然のこととして身につけていました。

子育てのメインは母親だっていうこと。(周作氏は)絶対母親の代わりは誰もできないっていうことは認めていました。ただ、いざ父親が出なければ、女房、子供は守れないと思う時は出る、それで十分だという考えでした。

「沈黙」の取材をする時に息子に小学校を休ませて、舞台となった長崎に連れていきました。それには、「いまはどうせわかんないだろうけど、親父と一緒に見た風景を、親父はこういうふうな視点で見ていたんだということを後でわかってもらいたい」という思いがあったのです。

■失われた命のために

「生命尊重センター」というところの事務局から、折り入ってお願いしたいことがあるから時間をつくってほしいと電話があったのは、2002年の晩秋のことでした。そのとき聞かされた、戦後日本で行われた胎児の中絶数には心底仰天しました。

1948年（昭和23年）から厚生省（当時）が発表している妊娠中絶数は、医師が正式に届けた数字だけであって、実際に終戦後2000年までの55年間に闇から闇に葬られた胎児の数は、この2倍から3倍あるというのが、専門家の間では常識になっています。それは内輪に見積もって6,700万人といわれております。

妊娠中絶の問題を考えるということは、つまり、援助交際、幼児虐待、老人の自殺などなどの問題を抜きにしては、何の解決もえられない話であり、大本のところの、家庭の崩壊という大津波にのみ込まれてバラバラになってしまった家族の絆をいかにして取り戻すか、という大問題に立ち向かわざるをえない話なのだとということも理解できました。

■私たちがなすべきこと

年を取った方が体力も知力もあり長年蓄積した経験もありながら、余生をひっそり生きているのは、もったいないことに思えてなりません。私たち「おばあさん」「おじいさん」が若い世代に残さなくてはならないものは、たくさんあるはずです。

先日も、朝日カルチャーセンターに行ったら、受講生の80パーセントが女の人だとうかがいました。女性に好評な講座は、お茶やお花などではなく、人生の根源的な精神世界の話、哲学的な話なのだそうです。そういう精神的な刺激を受けることは若さを保つ秘訣だと思いますし、大いに好奇心結構、お洒落をしてでかけることも結構だと思います。でもそれだけでいいですか。もう一歩進めて、社会のために奉仕する。人のために何かをすることが求められているのではないのでしょうか。それが、結局自分のためにもなると思うのです。

数年前、松山での講演会に参加したことがあります。遠藤先生はとても明るく頼もしく、そして可愛らしい方です。おひとりでも多くの方においでいただけますよう、また、まわりの方をお誘いいただけますようお願い申し上げます。

◆男女混合名簿を考える

□7月23日(木)にわいわいトークを実施いたしました。

混合名簿については、愛媛県は2010年に100%の実施を目標としています。また、松山市でも毎年、小・中学校対象に行っている調査で未実施の学校にその予定を聞くなど、事実上の強制が行われているのが実態です。今では100%実施が行われているはずですが。

わいわいトークの事前にご協力いただいたアンケートでは、先生方からは

- ・「混合名簿になると最初はやりにくくて仕方がなかったが、1年も経つと自分の意識に、男の子・女の子という意識がなくなってしまう。」
- ・「混合名簿は差別解消の役には立たないばかりか誤った教育になっている。」
- ・「男女混合名簿は非合理的で、面倒で何もいいことない。」
- ・「男女別名簿の方があらゆる面で便利だ。」

またご父兄からは

- ・「孫のクラスでは男の子も、さん付けで呼ばなければならなくなった。」
- ・「男子は「くん」、女子は「さん」は日本の呼び名の文化ではないか。」
- ・「ジェンダーフリー思想を教育現場に持ち込むのはおかしい。」
- ・「男女平等と混合名簿は関係ない。混合名簿は教育現場を荒らしている。」
- ・「男女平等は、協力・尊重・理解が重要。敵視が前提ではいけない。」
- ・「別名簿、くん・さん、僕・私は、男らしさ・女らしさを育てる。」
- ・「少年・少女期の帰属意識の欠如教育は、家庭・国の崩壊につながる。」

というご意見を頂きました。

この問題に詳しい林道義先生はHPに以下のようにお書きになっておられます。

こうした男女無区別主義は恐ろしい弊害を生む危険がある。男女の区別をしないと、子供たちのアイデンティティーが健全に作られない、つまり自我が正常に発達しないからである。アイデンティティーとは、『自分が自分らしいと思えばよい』というような簡単なものではない。いくつもの層から成り立っている複雑なものである。

たとえば、家族の一員だという帰属感。また自分は男なのか女なのか、どちらなのかという帰属感。そのほかにも日本人という帰属感。故郷や学校や会社への帰属感など、多くの帰属感の累積によってアイデンティティーが形成される。もちろんそれらの中心には、自分とはこういう人間だという確信があり、それも大切である。

こういう同心円的な層をなす帰属感の集まりが、アイデンティティーの本質である。

中でも、自分は男または女だという自己意識はアイデンティティーの基礎であり、たい

へん重要である。これが揺らいで定まらなると、性同一性障害(注・後天的なものをさす)に陥るばかりでなく、自我そのものが健全に形成されない恐れが出てくる。

子供は三歳くらいから始まって思春期までには、自分が男または女の特性を持っていることを意識的に確信し、それなりの行動基準が確立されていなければならない。

さもないと、価値観や考え方の面で自分に自信が持てず、無気力や閉じこもりの原因になりかねない。さらに、異性との関係がうまく作れないとか、セックスがうまくできないとか、同性愛に傾くとか、要するに生物として子孫を残すために必要な行動に支障が出るおそれがある。予想される障害は多岐にわたり、深刻である。

このままジェンダーフリー教育が広まると、五年後十年後には青少年の心の病が急増する恐れがある。それを防ぐためには、男女の区別を科学的に正しく教え、その上で両性の分業と協力の正しいあり方について考えさせる教育が必要である。男女の区別を正しく意識させることはむしろ必要であり、混合名簿などのまぜこぜ教育はきわめて危険である。

男らしさと女らしさは、生まれつきの違いを基礎にして、社会的・文化的に着色されたものであることは、いまや脳科学によって証明済みである。この生まれつきの男らしさ・女らしさを自由に出すことが妨げられると、心は不当なストレスにさらされる。必ず悪い影響が出るであろう。男女の違いを否定する教育は、子供たちの心に不自然なひずみを与える危険な暴挙と言わざるをえない。

ジェンダーフリー教育は、愚かを通り越して、子供たちの心の成長を阻害する犯罪と言わなければならない。

【連載】 変貌するフェミニズム科学

—— (2) 男はできそこない? (下) ——

【前回の要旨など】 昨今のフェミニズムは、男女が同じだという愚かなことは唱えない。最新の生命科学や遺伝子の研究を引用して、男女は違うが女が優越すると宣伝する。福岡伸一著「できそこないの男たち」には、「イブがアダムをつくった」「人の基本は女である」「男は女から作られたできそこないである」と述べられている。今回はそれらを検討する。

■ 「できそこない」でも男は不可欠

性決定遺伝子(SRY)が作り出す男性ホルモンのため、男は女に比べて免疫力が弱く、したがって寿命が短いという。つまり、男はハンディキャップを負っている。しかし、そ

れを「できそこないだ」というのは言い過ぎではないか。

「イブがアダムを作った」という表現には、自然界にはメスだけの種が存在するから、ヒトの場合にも男は必要ではない、また必要があれば女が男を作り出すのだという意味も込められている。しかし、「できそこない」であったとしても男が存在したから、ヒトは存在してきたのである。科学的見地から男を見下し、「弱きもの、汝の名は男なり」と哀れむことなどあってはならない。

■アダムとイブは同時に生まれた

現生人類が現れてから 15 万年ほどしか経っていない。そして、人類には最初から男と女がいた。つまりイブがアダムから造られたのでもないし、アダムがイブから造られたのでもない。

■男は始めから男と決まっておき、女は始めから女である

卵子が受精したとき、受精卵の性染色体によって性は決まっている。7 週目に入るまで SRY が働かなくても、男は始めから男と決まっている。女が男に変わるわけではない。

「人は男に生まれるのではない。男になるのだ」とは大嘘である。SRY を持たない女は始めから女である。男か女かという運命は神ならぬ遺伝子が決めるのである。「イブ (女) がアダム (男) を作る」とは、誇張の度が過ぎよう。

■雌雄が生じたのは太古の昔

現生生物の大半に雌雄があるのはなぜかといえば、環境の大変動のなかで生き抜くうえでそれが有利だったからだとされている。しかし、地球が 46 億年前に誕生し、35 億年以上前に地球に最初の生命が発生して以来、長い間、性は存在しなかった。生物に雌雄が出現したのは 25 億年前のことである。つまり、ヒトの進化を遡れば、その雌雄の起源はヒトがまだヒトでなかった太古の昔にある。アダムやイブが出る幕はない。

■雌雄がなくてもメスはいる？

福岡氏は、「生命が現れてから 10 億年、この間、生物の性は単一で、すべてがメスだった」と述べている。雌雄が分かれていないのにメスがいたとは不思議である。思うに、子を産むものをメスと呼ぶらしい。オスの性染色体を持たないものをメスと呼ぶのだと反論されそうだが、それはオスが存在し、かつ染色体の知識を有する現在の表現にすぎない。それを素朴に言い換えると、「子を産むのがメスである」となる。

■フェミニストの無節操

生物学では「子を産むのがメスである」と定義しているのかもしれない。我々はその定義に反対する気はない。しかし、かつて柳沢伯夫元厚労相は「女は子を産む機械」と発言して、フェミニストや世論に袋叩きにされた。「機械」という言葉を用いたのは不適切だ

ったにしても、要は「子を産むのは女だ」と言ったのである。同じことに対して、ある時は正当化し、別の機会には非難するのは無節操ではないか。

■「メスがオスを創った」は大間違い

「メスがオスを創った」と言えば、環境大変動を乗り越えて生き残ろうとするメスの意志を認めることになる。しかし、その説明は進化論に反する。オスはメスの意志と選択によって作られたのではない。突然変異と自然淘汰によって偶然生じたのである。遺伝子のレベルでも、突然変異の大部分は生物の生存にとって有利でも不利でもなく、中立的だとされている。この説は「分子進化の中立説」と呼ばれ、提唱した木村資生博士は、その功績によって進化学のノーベル賞と言われるダーウィンメダルを受賞した。

■受精後しばらく性決定遺伝子が働かないわけ

卵子の受精後ヒトの誕生までの間には、単細胞生物から多細胞生物への変化、それに続く魚類や両生類の段階およびその後の進化の過程(系統進化という)を経るのだという(小島郁生監修「進化論の不思議と謎」, 日本文芸社)。簡単に言えば、バクテリアからヒトへの系統進化の過程(厳密には、その要所要所)をたどるということである。そして、その過程には無性の期間がある。このことから、受精直後から性決定遺伝子が働き始めるまでの6週間は、系統進化の過程の無性期間に対応するとの推測が可能であろう。

■「できそこないの男たち」は科学発見物語としては面白いが……

教科書がつまらないのは、なぜ、そのとき、誰が、どのようにして、その研究を行ったかという切実な事情を説明しないからだ、と福岡伸一氏はいう。そういう工夫が凝らされているから、「できそこないの男たち」(光文社新書)は科学発見物語あるいは研究者の功名争い物語として一般人にも面白く楽しめる。発見事実の説明は微に入り細にわたっており、正確だと認めてもよい。しかし、その工夫の一環であるとしても、解釈や結論をフェミニズムで脚色したのは科学の逸脱であり冒涇である。読者が毒に冒されないことを祈る。

(めざす会幹事 水上統一)

■□□事務局からのお知らせ■□□

■「松山を考える会」(代表・渡部浩三氏)の例会で、元・警察学校副校長の渡邊滋夫先生のお話をお聞きしました。警察官の採用試験で成績優秀者は女子が圧倒的に多いが、昇進試験となるとなかなか女性には難しい。女性は教えられた範囲の学習は得意で、鑑識や少年補導といった専門的な仕事で活躍している。一方男性は総合的な指揮系統の仕事に向いている。「師道 仰の碑文」に「性に応じて材に従い」という一節がある。女性の警察

官の割合を 30%にするのが目標のようだが、女性の特性に合った活躍を期待している、
というようなお話でした。

■年会費（1000 円）の切れる会員の方には振替用紙を同封しております。現在の会員数は 681 名。1,000 名をめざしております。この機会にご家族やご友人にもご入会いただけますようお願い致します。新しい方のお名前は通信欄にお書き下さいませ。

健全な男女共同参画社会をめざす会

事務局 青井美智子 〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903 メール t64r59@bma.biglobe.ne.jp